３　研究の柱

①道徳の時間及び特別活動の充実
学習を支える基盤として，一人一人が自己を見つめ，他と学び合う心を育む

② 確かな学力の向上
楽しく「わかる・できる」学習で「思考力，判断力、表現力等」の育成
アクティブ・ラーニングやユニバーサルデザインの視点からの授業改善

『学びのユニバーサルデザイン』をキーワードとした教育活動の充実

①　道徳教育の重点に沿って段階を追った指導を重ね，『自主・自律』『よりよい人間関係』を目指す。（低学年：「基本的な生活習慣」→中学年：「規範意識」→高学年：「人間関係を築く力」）本校の重点指導事項「個性の伸長」「友情・信頼」について特別活動が人間関係形成力を育成する大切な教育活動であること，道徳的実践を担う大切な教育活動であることをふまえ，学級活動の実践を計画的に積み重ねていく。また，学級活動で培った学級集団の人間関係や一人一人の心の成長を基盤に据え，自己の生き方について考えを深め、生きる自分への自信をもたせる。さらに，道徳の教科化を意識し，道徳教育の要である「道徳の時間」の充実を図り，さらに特活で道徳的実践力を育む。

②　特別支援教育の考えを生かし，すべての学級で“学びのユニバーサルデザイン”を意識した授業改善に努め，授業の質の向上を図る。
　各教科において，言語活動の充実を通して「思考力，判断力，表現力等」の育成を図り，確かな学力を身に付けさせる。子どもたちの思考力・判断力・表現力等を育むために，基礎的な音読や暗唱，国語辞典の活用を図り，高学年においては，記録・説明や論述といった知識・技能を活用する学習活動を行い，言語の能力を高めるようにするとともに，主体的な言語活動における学校全体の共通のゴールやフレームを教科ごとに明確にする。
　また，学び合いの段階における「問い直し」を重視した共有化に焦点をあてて，効果的なインタラクション（相互作用）によるより質の高い授業を目指す。そして、授業のゴールの段階におけるねらいを達成した子どもの姿を具体的に捉えつつ、リフレクション（自己内省）を意識したまとめの表現を確かに見取ることを共通実践していく。

③　関係各位の指導をいただきながら，先進校視察及び各種研修会に積極的に参加し，その成果を共有し，教育活動に生かす。